

資産運用

お客さまに対し、将来にわたって保険金等を確実にお支払いできるように、安心・確実を旨とする資産運用に取り組んでいます。また、その実践に向けては、持続可能な社会の存在が前提となるため、ESG(環境・社会・ガバナンス)を含む中長期的な持続可能性(サステナビリティ)を考慮した資産運用(責任投資)に取り組んでいます。

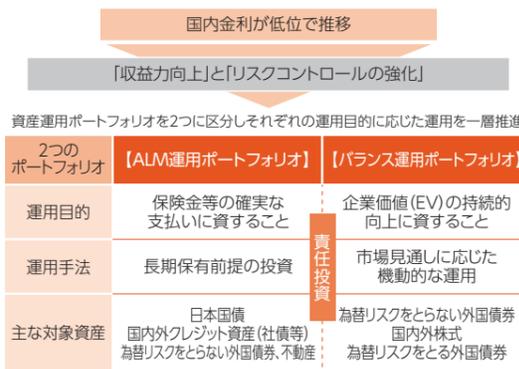


基本方針と取組みの方向性

契約期間が長期にわたる生命保険契約の負債特性に応じて資産を管理するALM(資産負債の総合的な管理)の推進を基本方針として、安定的な収益確保と確実な保険金等のお支払いの実現を図るため、長期の公社債や貸付金などの安全性の高い資産を中心とした投資を行います。さらに、許容されるリスクの範囲内で収益の上乗せを図るため、株式や外国債券などへの投資を行います。

国内金利は低位で推移しており、今後も低金利環境が継続することが想定されますが、世界の政治・経済情勢に大きな変化も見られている中、運用環境が大きく変化する可能性もあります。このような状況の下、「収益力の向上」および「リスクコントロールの強化」を図るため、資産運用ポートフォリオを2つに区分し、それぞれの目的に応じた運用に取り組んでいます。また、これらの目的の達成には、持続可能な社会の存在が前提となる

ため、ESGを含む中長期的な持続可能性(サステナビリティ)を考慮した運用(責任投資)を行うことにより、社会的に責任ある機関投資家として持続可能な社会の実現にも貢献していきます。



スミセイ中期経営計画2022

資産運用

お客さまに安心・満足いただける資産運用の実現

- 国内の低金利環境の長期化が想定される中で、お客さまに安心・満足いただける資産運用の実現に向け、資産運用収益力向上とリスクコントロールの強化に取り組めます。
- 持続可能な社会の実現および中長期的な資産運用収益力の向上を目指し、責任投資を通じて脱炭素社会への移行や社会課題の解決に向けた取組みを推進します。
- 資産運用を支える専門人材育成やシメトラとの協働を通じた運用体制の強化に取り組めます。

資産運用収益力向上

資本を有効に活用し、外貨建クレジット資産や株式、オープン外債等への投資拡大に取り組むことで、収益力向上を図る

リスクコントロールの強化

金利リスクを中心としたリスク削減に取り組むつつ、ポートフォリオのさらなる分散を推進することで、リスクコントロールの強化に取り組む

2021年度の振り返り

2021年度の運用環境

2021年度の金融市場は、新型コロナウイルスの感染拡大が続く中、年度前半は各国中央銀行の緩和的な金融政策の下で低金利環境が継続しましたが、年度終盤にかけてインフレの大幅上昇により多くの国で金融政策が引き締め方向に向かい、海外長期金利は大きく上昇しました。一方で、国内長期金利は日銀の金融緩和継続を背景に低水準の推移が続き、国内株式は企業業績の回復を受けて上昇する局面もあったものの、年度終盤にかけては海外株式の下落に連れて値を下げ、昨年度末対比で下落しました。また、為替市場では、資源価格上昇による日本の経常収支悪化や日米の金融政策の違いを背景に円安ドル高が進展しました。

| | 2020年度末 | 2021年度末 |
|---------|------------|--------------|
| 日本10年国債 | 0.090% | ↑ 0.210% |
| 日経平均 | 29,178.80円 | ↓ 27,821.43円 |
| TOPIX | 1,954.00pt | ↓ 1,946.40pt |
| 米国10年国債 | 1.740% | ↑ 2.338% |
| ドル/円 | 110.71円 | ↑ 122.39円 |
| ユーロ/円 | 129.80円 | ↑ 136.70円 |

今後の取組み

2022年度は、国内の低金利環境が続く一方、米国ではインフレーションを背景に利上げが加速するなど金融市場の先行き不透明感が高い状況が見込まれます。こうした環境の下、2021年度の取組みの継続に加えて、更なる収益力向上に向けた取組みとして、為替リスクをとる外国債券への投資を拡大するほか、債券・株ともに利回り・配当の高い銘柄への入替えを検討します。海外社債の運用については、海外子会社シメトラの資産運用子会社(Symetra Investment Management Company)への全面委託を開始し、個別銘柄の分析能

2021年度の取組み

引き続き「ALM運用ポートフォリオ」と「バランス運用ポートフォリオ」の2つのポートフォリオ運営を推進し、適切なリスクテイクによる資産運用収益力の向上を図りました。

〈ALM運用ポートフォリオ〉

超長期の日本国債等への投資を進め、国内金利リスクの削減を推進しました*。また、為替リスクをとらない外貨建クレジット資産(海外社債など)への投資を推進したほか、非伝統的資産(債券や株式といった伝統的資産と呼ばれるもの以外の資産や投資手法)への投資を進めるなど、収益力の向上を図りました。

*契約期間が長期にわたる生命保険契約の負債特性に対し、長期間の運用が可能な資産は限られており、資産と負債で期間のミスマッチが生じているため、超長期の債券へ投資することで、ミスマッチが縮小し、リスクを削減する効果があります。

〈バランス運用ポートフォリオ〉

許容されるリスクの範囲内で、収益の上乗せを図るべく、株価や金利・為替の動向に留意しつつ、国内外株式や為替リスクをとる外国債券への投資を進めました。また、大幅な相場下落時に生じる損失を一部相殺できるように金融派生商品を活用した株式や為替のヘッジも行い、適切なリスクコントロールを実施しました。

力向上と投資対象銘柄の拡大により、資産運用収益力の向上とリスクコントロール強化を図ります。また、価格下落リスクに備えたヘッジの拡大を検討します。

責任投資においては、2022年度からは当社の資産運用は全て責任投資であると位置付け、社会課題の解決に向けた実効性ある取組みを推進します。

また、資産運用体制強化に向けた取組みとして、専門人材の育成、ITを活用した業務効率化推進や投資手法・分析の高度化への取組みも引き続き推進します。

| | 【ALM運用ポートフォリオ】 | 【バランス運用ポートフォリオ】 |
|--------------|--|---|
| 資産運用収益力向上 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 為替リスクをとらない外貨建クレジット資産への投資(海外社債のシメトラの資産運用子会社への全面委託を開始) ✓ 非伝統的資産の投資対象拡大 ✓ 金利上昇局面を捉えた銘柄入替え | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 為替・金利水準に留意しつつ、為替リスクをとる外国債券への投資を拡大 ✓ 中長期的に割安と判断できる水準で国内外株式への投資を拡大 ✓ 金利上昇局面を捉えた銘柄入替え、高配当銘柄への入替え |
| リスクコントロールの強化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 超長期債等への投資による国内金利リスク削減のより一層の推進 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ 価格下落リスクに備えた株式や為替の適切なヘッジ |
| 資産運用体制の強化 | <ul style="list-style-type: none"> ✓ シメトラの資産運用子会社へ海外社債の運用を全面委託 ✓ 人材ダイバーシティの推進、海外トレーニー派遣等を通じたノウハウ吸収や専門人材の育成 ✓ ITを活用した業務効率化推進や投資手法・分析の高度化 | |

責任投資の取組み推進